

「あなたは復活を信じますか？」コリント人への手紙 第一 15章 12-28節

2026.2.1 礼拝

序論)

私は、この教会に赴任して以来、いくつもの葬儀を執り行わせていただきました。その中で、いつも強く感じことがあります。それは、信仰を持たずに亡くなられた方よりも、信仰を持って天に召された方の葬儀の方が、圧倒的に「平安がある」ということです。

なぜ、そのように言えるのでしょうか。

私たちは、信仰を持たずに亡くなった方については、「神様にお委ねします」としか申し上げることができません。しかし、信仰を持って、【主】イエス・キリストによって救われて召された方については、自信を持ってこう言うことができます。「この方は今、神様のもとで永遠の平安の中におられます」と。その確信があるからこそ、地上に残された私たちも、平安をもって葬儀を行うことができます。

さらに、信仰を持って召された方について私たちが言えるのは、その方が今、平安の中にいるというだけではなくて、「やがて【主】の日に、再会することができる」という、「再会の希望」も語ることができます。だからこそ私たちは、悲しみの中にあっても、平安と希望を持ちながら故人を葬ることができます。

そして、この「再会の希望」の根拠となっているのが、私たちがキリストにあってよみがえることができる、それも「体を伴ってよみがえることができる」という希望です。

聖書の約束によれば、私たちはやがて栄光の体をいただき、靈と体、その両方を伴った状態で復活するとされています。これは私たちの信仰の土台となる非常に大切なことです。

しかし残念ながら、現代の合理的な価値観や常識で聖書を理解しようとする人の中には、この「体の復活」ということを、どうしても信じない人たちもいます。

実は、今私たちが読んでいるコリント教会の人たちの中にも、同じような人たちがいました。「キリストの復活」そのものは信じができるけれど、「自分たちの体がよみがえる」ということまでは信じられない。そういう人たちがいたのです。

そこでパウロは、そのような人たちに対して「キリストの復活を信じているのに、自分たちの体の復活を信じないというのは矛盾している」ということを、今日の箇所で丁寧に説明しています。

私たちの信仰にとって、この「体の復活」という教えは、どれほど大切なもののでしょうか。そして、復活されたキリストが最終的に成し遂げられる御業は、どのようなものなのでしょうか。今日は聖書から、その希望のメッセージを受け取っていき

たいと思います。

1) 問題提起

まずパウロは12節で、教会の現状について問題提起をしています。一緒に読んでみましょう。

15:12 ところで、キリストは死者の中からよみがえられたと宣べ伝えられているのに、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はないと言う人たちがいるのですか。

パウロは15章の前半で、福音の内容を確認しました。それは「キリストが十字架にかかり、葬られ、3日目によみがえられ、そのよみがえりのキリストと出会った人が何人もいる」ということです。キリストの復活は、弟子たちが作った創作物語などではなく、実際に多くの人たちによって目撃され、証しがれている歴史的事実でした。

これは、コリント教会の人たちも受け入れていました。「キリストがよみがえった」ということは信じていたのです。それなのに彼らの中には、「私たち人間が死んだ後、よみがえることはない」と言う人がいました。

なぜ彼らはそのように考えたのでしょうか。それは、当時のギリシャ文化や価値観の影響を強く受けていたからです。

当時のギリシャ世界では、「靈は尊いものだが、肉体は尊くないもの、むしろ魂を閉じ込める牢獄のようなものだ」と考えられていました。だから、「死ぬということは、この汚れた肉体から靈が解放されることであり、それこそが救いだ」という価値観が広がっていたのです。

そのような価値観を持つ人たちにとって、「体がよみがえる」というのは、救いどころか、「また牢獄に戻る」ような話に聞こえたのかもしれません。だから彼らは、「復活というのは、死後の体のよみがえりではなく、キリストを信じて靈的に新しくされることを指しているのだ」と主張し、体の復活を否定していたのです。

確かに、私たちは信仰によって靈的に新しく生まれ変わります。しかし、聖書が教える復活はそれだけではありません。聖書に「体も【主】の日によみがえる」と約束が書かれています。テサロニケ人への手紙 第一 4章 16節、17節を読んでみましょう。

I テサロニケ 4：16-17

すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が

天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

このように聖書は死者がよみがえることを教えてています。

だからこそ、もし、この体のよみがえり、死者の復活がないとしたら、私たちが信じている信仰は、根本的に崩れてしまうのです。パウロはそのことを、続く箇所で説明しています。

2) もし死者の復活がなかったら

もし、コリント教会の人たちが言うように「死者の復活」がなかったとしたら、どうなるのでしょうか。

① 語られた宣教が中身のないものになる

第一に、パウロたちが命がけで語っていた福音、その教え自体が嘘になってしまいます。13節から15節を読みましょう。

15:13 もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。

15:14 そして、キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。

15:15 私たちは神についての偽証人ぎしょうじんということにさえなります。なぜなら、かりに死者がよみがえらないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかつたはずなのに、私たちは神がキリストをよみがえらせたと言って、神に逆らう証言をしたことになるからです。

パウロはここで（13節表示）、「もし死者の復活がないなら、キリストもよみがえっていないはずだ」と言います。なぜなら、キリストの復活と私たちの復活はセットであり、キリストは「私たちをよみがえらせるために」私たちに先駆けてよみがえられたからです。

そのため、もし死者のよみがえりがないなら、完全な人となられたイエス様もよみがえっていないことになります。

そして、もしキリストがよみがえっていないなら、教会が宣べ伝えてきたことはすべて「空しく中身がない」教えとなり、パウロたちは「神様のことについて嘘をついた偽りの証人」になってしまいます。

皆さん、考えてみてください。パウロたちは、人々を騙すために、嘘をつくために、命がけで宣教していたのでしょうか？彼らは復活を証言するために、石打ちにされ、投獄され、命を狙われました。ただの嘘のためにそこまでするなんて、割に合わないことではないでしょうか。

彼らが命がけで語ったのは、それが紛れもない事実だったからです。そして、キリストがよみがえったという事実は、やがて私たちもよみがえるという約束の保証だったのです。

② 信徒の信仰も結果や目的がないものになる

さらにパウロは、もし復活がないなら、私たちの信仰生活も無意味になり、罪の問題も解決していないことになると言います。16節と17節です。

15:16 もし死者がよみがえらないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。

15:17 そして、もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます。

聖書において「死」は「罪の結果であり、その報い」です。そして、キリストが復活されたのは、その死の力を打ち破り、罪の問題が解決したことを証明するためでした。

だから、もしキリストがよみがえっていないなら、死の力はまだ有効であり、罪の解決はされていないことになります。つまり、私たちは「今もなお自分の罪の中に沈んでいる」滅びるしかない存在だということになってしまいます。

ですから、「体のよみがえり」を否定することは、キリストによる救いの完成を否定することにつながってきます。

③ すべてのキリスト者は一番哀れな存在になる

それだけではありません。もし復活がないなら、(18節表示)すでに信仰を持って亡くなった方々は、そのまま滅んでしまったことになります。そして、今生きている私たちの希望も、この世限りの一時的なものになってしまいます。

だから、パウロは19節で、こう言っています。

15:19 もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちはすべての人の中で一番哀れな者です。

そうですよね。私たちは永遠の命を信じて歩んでいます。それなのに、もし死んで終わりであり、結局、何も残らないなら、私たちは世界中で一番の愚か者であり、哀れな者ということになってしまいます。

3) キリストのよみがえりの意味

しかし、感謝なことに、そうではないのです。

① 事実の宣言（初穂としてのキリスト）

20 節を読みましょう。

15:20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

「今や」というのは「まぎれもない事実として」という意味です。キリストは現実に死者の中からよみがえられました。しかも、ただよみがえられただけではなく、「眠った者の初穂」としてよみがえられました。

「初穂」とは、収穫の時期に一番最初に採れる実のことです。最初の実が採れたということは、それに続いて多くの収穫があることの保証となります。

つまり、主イエス・キリストは、「この方を信じた全ての人が、後に続いてよみがえる」ということを保証するために、私たちの代表として、先立ってよみがえってくださいましたのです。

② アダムとキリスト

だからこそ、このお方の復活によって、私たちには「命」が与えられます。21 節、22 節を読みます。

15:21 死が一人の人を通して來たのですから、死者の復活も一人の人を通して來るのです。

15:22 アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。

最初の人アダムが神様に背いたことによって、世界に「死」が入ってきました。だからこそ、アダムの子孫である私たちはみな、死ぬべき存在です。

しかし神様は、私たちを生かすために、第二のアダムとしてキリストを送ってくださいました。だから、アダムによって死が入ったように、キリストによって復活と命が与えられるのです。そのため、キリストにつながるすべての人は、キリストと共に生かされることになります。

③ 復活の順番と神の国

ここでパウロは「順番」が大切だと言っています（**23 節表示**）。なぜこのような強調をしているかというと、当時の人たちの中には「復活はもうすでに心の中で起こったことで、これで終わりだ」と勘違いしている人がいたからです。

聖書が教える正しい順番はこうです。まず初穂であるキリストがよみがえり、次に、キリストがもう一度来られる「再臨」の時に、彼を信じる私たちがよみがえります。

そして、（**24 節表示**）その後に「終わり」が来ます。聖書は、この今の世界が永遠に続くとは教えていません。神様の計画には完成の時があるのです。

④ 終わりの時になさるキリストの御業

では、その終わりの時に【主】イエス・キリストは何をされるのでしょうか。24 節です。

15:24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。

ここでキリストは、あらゆる「支配、権威、権力」を滅ぼされます。これは、神様に敵対する悪の力、この世を支配しているように見える様々な力のこと指します。キリストは、それらをすべて無効にし、王としての支配権を、父なる神様にお返しになるのです。

神様は、すべての敵をキリストの足の下に置く、つまり完全に屈服させるために、キリストにあらゆる権威を与え、キリストこそが世界の王として治めるようにされました。だから、今の世界の本当の王様はキリストなのです。

そして、キリストが最後に滅ぼされる敵は何かというと、「死」です。26 節を読みましょう。

15:26 最後の敵として、死が滅ぼされます。

神様が、定められた順序によれば、この死という最強の敵が完全に無力化された時、私たちの復活は完成するのです。

⑤ 最終目的

では、キリストがすべての敵を滅ぼした後、最後に何が起こるのでしょうか。28節の後半に、キリストの復活、そして、私たちの復活の最終的なゴールが書かれています。

15:28b これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

皆さん、これが最終的なゴールです。「神がすべてにおいてすべてとなられる」。

今はまだ、この地上には悲しみがあり、悪があります。しかし最終的には、神様のご支配が全世界の隅々まで完全に行き渡り、何一つ神様の御心から離れたものない、完全な平和が訪れ、神の国が完成するのです。

私たちは、その完成した神の国において、霊だけでなく、よみがえった体、それもただこの世の肉体がよみがえるのではなく、栄光の体としてよみがえり、死も、恐れも、病気もなく、永遠に神様と共に住まうことになるのです。そのために、キリストは初穂としてよみがえってくださいました。

みなさんは、そのことを信じられるでしょうか。

結論)

私たちの信仰の希望は、この地上の人生だけで終わるものではありません。また、単なる気休めの物語でもありません。

主イエス・キリストは、私たちに先立って死者の中からよみがえられ、私たちもやがて霊だけでなく、体を伴ってよみがえることを、キリストの復活という歴史的事実をもって保証してくださいました。

だから、キリストの復活と私たちの復活は、切り離すことができません。【主】が初穂としてよみがえられたように、キリストにあって眠った者も、必ずよみがえります。そして終わりの時、キリストはすべての敵を滅ぼし、私たちを苦しめる死そのもののさえも無効にしてくださいます。

そして、聖書が教える最終的なゴールは、神様がすべてにおいてすべてとなられ、私たちがその中で永遠に生きることです。

私たちは、この「復活の希望」があるからこそ、自分や愛する人との死と向き合うことになっても絶望せず、むしろ、「また会える」という再会の希望をもって歩むことができるのです。

だからこそ、今日、改めてこの復活の約束を心に刻みたいと思います。キリストがよみがえられたように、キリストを信じる者は必ずよみがえります。これは事実であり、私たちの揺るがない希望です。

この希望をしっかりと握りしめて、今週も【主】を礼拝し、主の民として歩み続けてまいりましょう。